

＜各構造物の平成28年度の修繕進捗状況＞

道路施設	H28修繕 当初計画数 (A)	H28修繕 実施数 (B)	計画数と実施数 との差 (B-A)	修繕実施率 B/A
橋梁	64	65	1	101.6 %
トンネル	7	9	2	128.6 %
道路附属物等	8	9	1	112.5 %

- ・ H28修繕実施数（B）には、平成28年度修繕完了見込みも含まれています。
- ・ 数値は各道路管理者の管理施設数ベース。

■小柳川橋の諸元

橋長	41.3m	竣工年	1963年
幅員	10.0m	有効幅員	9.0m
橋梁形式	単純鋼版桁橋		



■小柳川橋の損傷概要

- 経年及び伸縮装置からの漏水により、支承部に著しい腐食。



支承部の腐食



後打ちCo部の劣化

■修繕工事の内容

- 支承の腐食部分をブラストで素地調整後、亜鉛アルミ合金を溶射。

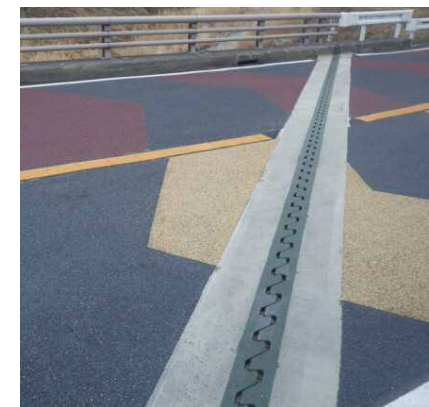


ブラスト処理による素地調整



金属溶射による補修完了

- 伸縮装置の非排水化とあわせて後打ちコンクリートの劣化対策のため、伸縮装置の取り替えを実施。



※この補修事例はあくまでも参考事例であり、必ずしも記載されている補修工法がどの橋梁にもそのまま適用できるものではありません。

山梨県の修繕事例(矢坪橋)

■ 矢坪橋の損傷概要

平成26年度の点検結果において、乾燥収縮によるひび割れが確認され、将来的に鉄筋腐食、橋台の曲げ耐力不足が懸念されるため補修を行った。

■ 矢坪橋の諸元

橋梁名(カナ)	ヤツポハン		所在地	(自) 上野原市大野	路線名	主要地方道 大月上野原線					
橋名	矢坪橋		(至)		交差物種別	道路	交差物名称	中央自動車道			
交通量	733台/12h	交通量	71台/12h	跨道橋桁下高	m	橋長(m)	50.300m	斜角(起点)	75	車線数	2
(総台数)	909台/24h	(大型車台数)	88台/24h	昼夜率	1.24	最大支間長(m)	49.000m	斜角(終点)	75		
架設年(西暦)	1999	径間数(径間)	1径間	主な橋梁形式	単純鉄桁橋						
年号	平成	設計活荷重	B活								



■ 修繕工事の内容

橋台前面において確認されたひび割れ(幅0.4mm)の対策として、「コンクリートのひび割れ調査、補修・補強指針」に基づき、注入工法を選定し、エポキシ系樹脂を注入した。中央自動車道跨道橋ということで、規制方法や施工期間等をNEXCO中日本と調整したうえでの施工となった。



甲府市の修繕事例(湯川西橋)

■湯川西橋の損傷概要

橋梁中央付近で舗装剥離が発生。原因は防水層と床版の間の水分が気化し防水層が浮いた状態になる『ブリストリング』という現象と見られる。



■湯川西橋の諸元

橋長	23.9m	竣工年	H16
幅員	28.4m	有効幅員	27.6m
橋梁形式	プレテンションPC単純中空床版橋		



■修繕工事の内容

応急的な対応として、防水層に切れ込みを入れ、中に溜まった空気を除去した後、常温合材で補修を行った。

後日、損傷箇所周辺の舗装を切削し、防水層を除去した上で、改めて舗装を行い復旧した。

今後、本格的に防水層を復旧する必要があるかどうかは、経過観察を行う中で判断する。

常温合材補修前の空気抜き



舗装復旧前の防水層除去



※この補修事例はあくまでも参考事例であり、必ずしも記載されている補修工法がどの橋梁にもそのまま適用できるものではありません。

甲府市の修繕事例(河代こ道橋)

■河代こ道橋の損傷概要

平成21年度の調査において、経年劣化によるものと思われる地覆側面のコンクリート剥落および鉄筋の露出・腐食を確認。



■河代こ道橋の諸元

橋長	19.65m	竣工年	S53
幅員	5.0m	有効幅員	4.0m
橋梁形式	単純PC床版橋		



■修繕工事の内容

コンクリート剥落箇所については、左官工法にて断面修復を行った。当該橋梁が跨道橋(交差道路は平和通り)であることを考慮し、地覆側面に剥落防止工を施した。



断面修復完了



剥落防止工 施工状況



完成状況

※この補修事例はあくまでも参考事例であり、必ずしも記載されている補修工法がどの橋梁にもそのまま適用できるものではありません。

甲府市の修繕事例(村中五号橋)

■村中五号橋の損傷概要

平成23年度の調査において、経年劣化により床版下面の鉄筋が露出し、腐食が進んでいることが判明した。



■村中五号橋の諸元

橋長	3.0m	竣工年	不明
幅員	3.1m	有効幅員	2.8m
橋梁形式	単純RC床版橋		



■修繕工事の内容

コンクリートの脆弱部をはつり落とし、鉄筋に防錆処理を施した後、充填工法(型枠を組み、ポリマーセメントを充填)にて補修を行った。

コンクリート脆弱部の除去



ポリマーセメントモルタル充填



完成状況



※この補修事例はあくまでも参考事例であり、必ずしも記載されている補修工法がどの橋梁にもそのまま適用できるものではありません。